

出張報告届

令和5年2月15日

吹田市議会議長様

会派名 無所属クラブ

代表者氏名 生野 秀昭

出張者氏名 生野 秀昭

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

| | |
|-------|-------------------------------|
| 出張先 | リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東1-16-14） |
| 期間 | 令和5年1月30日から1月31日まで2日間 |
| 出張の成果 | 別紙のとおり |
| 備考 | |



研修報告書

無所属クラブ 生野 秀昭

期間 令和5年1月30日(月)～31日(火)
会場 福岡市 リファレンス駅東ビル 3階
講師 森 博之 立命館大学 政策科学部教授
議題 「我が街の財政徹底解説編」
内容 (1日目)

決算カード1「収入の基礎徹底解説」

- ・決算カードとは何か？見方を学ぼう
- ・地方^{自治体}と臨時財政対策債を決算カードで見してみる
- ・令和5年度予算のポイントを最新解説
- ・債務負担行為と^特事借入金についての把握の仕方

決算カード2「支出の基礎徹底解説」

- ・支出の推移と構成比から未来を予測しよう
- ・見えにくい公営企業等の財政を見る
- ・各支出について自分の街の決算カードを見て確認
- ・積立金と借金はコロナでどんな影響があったか
～質疑例を踏まえて解説～

(2日目)

決算カード3「財政収支の味方」

- ・自治体財政の赤字問題と直近の財政課題
- ・各自治体の財政支出の事例から財政危機の予兆を学ぶ
- ・実は赤字？本当の収支を決算カードで確認
- ・コロナを踏まえた財政収支の考え方

決算カード4「財政指標の味方」

- ・財政力指数とは無いか、正確に理解しているか？
- ・自分の街の施設などの資産老朽化比率
- ・経常収支比率の基礎的理解と議会での質疑例
- ・総務省のスタンスから考える今後の自治体財政

研修を経て

吹田市の状況

先ず企業の収入・支出と行政の歳入・歳出の性格の違いであるが、企業は、収入より支出を抑え利益を上げる事が目的であるが、行政とは企業と違い歳入に応じた歳出、行政サービスを還元するものである。

すなわち幾ら市民サービスと言えど、その実行で無計画な借金(市債)を将来に残してまで市民サービスをするものではないし、逆に使わなかったら余ったからと云って無計画に貯金(基金)を増やして将来使うものでもない。言い換えれば、歳入の範囲で身の丈に合った福祉サービスを実現する。

併せて限られた歳入の範囲で最大の効果の実現、歳出が市長の行政手腕である。

財政力指数

財政力指数とは、自治体の財政力を示す指標であり、基準となる収入額を支出額で割り算(÷)した数値で、1.00であれば収支バランスがとれていることを示すが、全国的に見て財政力指数が1.00を超えているのは都道府県では東京都のみで、市町村では全国の平均が約0.50である様に、愛知県海部郡飛島村を始めとするトヨタ企業関連企業の多い市町村などで、全国1741市区町村あるなかで100自治体も無い。

その点、本市の**財政力指数は0.99**と1.00を割っており、全国的に見て財政力は優良な自治体と言える。

実質公債費比率

実質公債費比率とは、地方公共団体の借入金(地方債)の返済額(元金及び利子)及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すものである。

本市は全国平均が5.5である中に於いて、**▲2.1**である様に地方公債費の返済が少なく、地方公共団体の借入金(地方債)の返済額(交際費)の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したもので、返済額に対して、特定財源や基準財政需要額等の合計額が上回る事により“▲”マイナス表記となっており、全国中核市の中で第1位である。

将来負担比率

地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額(※)に対する比率。

地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標ともいえる。地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標とも言える。

また本市の**将来負担比率がゼロ**で、全国中核市との比較に於いてトップの財政状況である様に喜ばしく、毎年の借金返済額が、市の財政を圧迫してないと言える。

しかしその反面、歳入に応じてもっと使えば良いのに使わなければ為らないのに使っていないと云った捉え方も考えられる。今の歳入を以て今の市民が受けるべき行政サービスを受けず、無計画に貯金(基金)を増やし、将来の市民がその恩恵を受ける。言い換えるなら、現在の市民の負担により将来の市民が行政サービスを受ける事に成る。

吹田市の財政状況の特徴(まとめ)

全国中核市との比較に於いて吹田市は、財政状況は相対的に良好な状況であり、借金返済や将来の負債が財政状況に与える影響は小さく、人口も増加傾向にあり、安定した財政基盤を構築しており、この強みを生かして、子育て世帯への支援や安心安全の為の取組、良好な住環境の形成といった施策に積極的に予算を投入できる状況である。

ところが研修で指摘された事は、本市の学校施設の有形固定資産減価償却率は、全国中核市との比較に於いて最下位に次ぐ悪さであり築30年以上が経過した公共施設が多い。財政状況から考えると最低である。

学校教育部学校管理に問い合わせたところ、順次大規模改修で使用年数=寿命を延ばしているとの回答であったが、それで良いのなら何故他の自治体でこの方法が採用されていないのか?市民1人当たりの基金残高は少なく、市民1人当たりの地方債現在額も少ないにも拘らず、なぜ小中学校施設に於いて類似都市と違う本市独自の延寿命化を採用しているのか理解出来ない。

今後の調査課題である。

以上。